

オーストラリアのまち並み調査と画像データベース化

長崎大学工学部 正 員 後藤恵之輔

同 上 学生員○生田 俊裕

同 上 正 員 奥村 運明

1. はじめに

世界には様々な国が存在し、それぞれ特色あるまちづくりが行われている。その中でもオーストラリアという国は歴史、文化、自然と共に発展してきた国であり、先進国の中では他に類を見ない特徴を持った国である¹⁾。そこで本研究では、このオーストラリアを第一、第三著者が1995年11月～12月に訪問した結果に基づいて、諸都市のまち並みの特色を顕にすること、及びそれらをデータベース化することを目的とする。

2. オーストラリア各都市のまち並み

2.1 キャンベラ

完全な計画都市であるためにまち並みは整然としており、キャンベラは造られた都市という印象を強く受ける。都市は川を堰き止めて造られた人造湖を中心に2つに分けられ、北側はシティヒルを中心として放射線状に住宅や商業地区が建ち並んでいる生活地域となっており、南側は新国会議事堂のあるキャピタルヒルを中心に、やはり放射線状に政府機関や各国大使館等が集まる政治と外交の中心地区となっている。キャンベラという都市は、目的に合わせて整備された地域、整然と放射状に伸びる道路、このような要因からどこかよそよそしい印象を受け易いまち並みとなっている。しかし、人工都市であるがゆえに考え抜かれた構造物、例えば新国会議事堂のように熱環境に配慮されたものを随所に見ることができる都市でもある。

2.2 シドニー

シドニーはオーストラリア第一の都市であり、首都の座をめぐる争ったメルボルンを引き離し経済の中心地となっており、世界中から人々が訪れる観光都市として有名である。人口約350万人のこの都市は、オーストラリアの開拓を行った移民船団が最初に上陸した場所であり、オーストラリアの歴史の始まりの地とも言える。また、地形的にも入り組んだ湾に面しているため、良港として栄えている。このような要因から、シドニーのウォーターフロントは、本市のシンボリックな構造物であるハーバーブリッジやオペラハウスが有名であるが、一方で昔ながらの面影が保全されている地区もあり、世界でも有数の魅力的なウォーターフロントに仕上がっている。

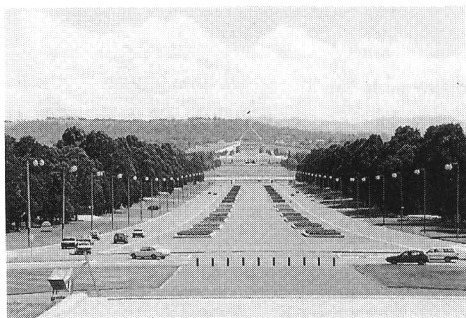


写真-1 キャンベラ・キャピタルヒル方面

(1995.12.1, 後藤撮影)

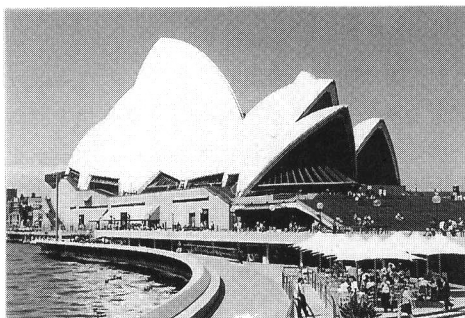


写真-2 シドニー・オペラハウス

(1995.12.2, 後藤撮影)

2.3 メルボルン

オーストラリア連邦が成立した際の1901年には臨時首都にもなったメルボルンは、首都がキャンベラに移ったことにより、シドニーに経済的にも遅れをとりオーストラリア第二の都市となっている。しかし、

英国風のまち並みが保存されており、博物館や美術館などの施設が他の都市と比べかなり充実している。また、まちには大小あわせて450以上の庭園があり、“ガーデンシティ”とも言われるような緑の多いまちになっている。都市中心部にはメルボルン名物とも言える路面電車が走っており、中心地区の主な交通手段として利用されているだけでなく、メルボルンの歴史を感じさせるものの一つとなっている。

2.4 クーバーペディー

クーバーペディーは、南オーストラリアの州都アデレードと巨大な一枚岩で有名なエアーズロックのほぼ中間に位置する、人口4000人程の砂漠の中にある小さなまちであるが、世界中のオパールの90%近くをここから産出しているという、世界でも有数のオパールのメッカとなっている。このまちは砂漠の中という厳しい自然条件下にある。そこでこの条件を克服するために、地下の高温・高湿性という特性を生かして地中に住宅を造ることで、この厳しい自然条件でも一年中ほぼ25℃で暮らしていているのである²⁾。まちでは人口の約半数の人が丘を掘削し地中の住宅で暮らしている。また、まちの至る所にオパールの鉱山跡地があり、その跡地を上手く利用して造られた構造物がある。その例として地中ホテル、教会、本屋等がある。



写真-3 メルボルン・中心地区と路面電車

(1995.11.28,後藤撮影)

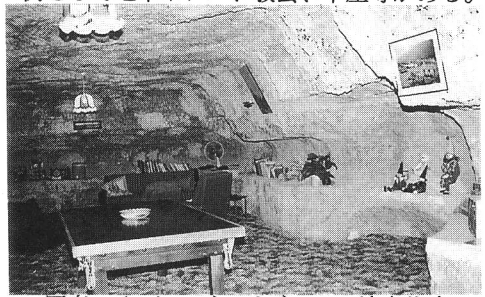


写真-4 クーバーペディー・地中住宅

(1995.11.25,後藤撮影)

3. 画像データベース化

3.1 画像データベース化の意義

大量の情報をいかに効率良く整理収集しようとする際、非常に便利である手法の一つとしてデータベースの製作が挙げられる。データベース化することにより、数多くの情報群の中から欲しい情報だけを手に入れることができるのである。そこで今回は、オーストラリアのまち並みについての文字及び画像情報の整理収集という観点でデータベース化を行った。特にまち並みの紹介をするに当たっては、文字情報だけではそのまちの雰囲気というものが伝わり難いものであり、どうしても画像情報が必要不可欠になってくる。しかも現地調査を行った際の大量の写真があり、それを生かすためにも画像データベース化が必要になるのである。

3.2 画像データベースの内容

このデータベースはHTML(Hyper Text Markup Language)を用いて製作したものであり、データベースとしては単純なものである。内容としては現地調査を行った6つの都市、キャンベラ、シドニー、メルボルン、ゴールドコースト、クーバーペディー、エアーズロックの各都市ごとの解説に、まち並みや構造物の画像を多く載せることでそのまちの特徴をつかみ易くしている。また、各都市・各地域ごとにそのまちが何をコンセプトにまちづくりを行っているかを分類し、そのテーマ別に見ることができるようにもしている。

4. おわりに

このようにオーストラリアでは、完全な計画・設計の下にできあがった都市、近代化を成し遂げつつも歴史も保全されている都市、自然と共存しつつ発展した都市など、一国内において様々な顔を見せてくれる国である。また、他の国のまち並みを調査することでデータベースの情報量を増やすと共に、そのことによってそれらと比較・評価できるようにするのが今後の課題である。

【参考文献】1)地球の歩き方④オーストラリア,pp.126~130,ダイヤモンド社,1996.2.

2)稲田 善紀:地下・地下・地下!,pp.28~37,森北出版,1992.10.